

平成 28 年度国内派遣事業（報告 その 1）

加治木高等学校は、平成 29 年に創立 120 周年を迎え、この記念すべき年を祝い、また、新時代を託せる後輩の育成のため、創立 120 周年事業の一つとして国内派遣事業推進を実施することとなりました。本格実施は平成 29 年からですが、平成 28 年度に関東龍門会のご好意でプレ実施することになりました。そこで、プレ国内派遣事業の概要等と東京での研修の様子について報告します。

趣旨（募集要項から）

同窓会（龍門会）支部のある国内の都市において、大学や企業・官公庁等の見学などの研修を行うことによって、進路意識と学習意欲の高揚につなげます。また、同窓生と交流をすることによって、同窓会支部との絆を深め、進学・就職した際に同窓生を相談相手とするきっかけをつくります。

研修概要

平成 28 年は、翌年の本格実施に向けた準備企画であり、関東龍門会の協力のもと、参加者 4 人の意向を確認しながら、以下の大学・企業等の見学・研修を行いました。なお、実施期間は、東京大学のオープンキャンパスに合わせ計画しました。

- 期日：平成 28 年 8 月 2 日（火）～4 日（木） 2 泊 3 日
- 大学見学：東京大学・一橋大学・東京工業大学・お茶の水女子大学・東京外語大学・慶應義塾大学・青山学院大学
- 企業等見学：TMI 法律事務所・UZUZ・農林水産省・TBS・ノーベルファーマ

平成 28 年度国内派遣事業参加者報告（企業等訪問編）

平成 28 年度の国内派遣事業には、3 年生の吉村君、山口君、仮屋さん、松平さんの 4 人が参加しました。以下に、4 人の報告をまとめます。

8 月 2 日（火）のお昼前、予定より遅れて羽田空港に到着しました。空港には、今回の研修を企画してくださった関東龍門会の二人が出迎えに来ていました。羽田空港から六本木へ電車を乗り継いで移動し、まず六本木ヒルズにあるレストランで昼食です。

食事を終わると、隣のビルへ移動し、いよいよ先輩方が勤める企業訪問です。最初に、S58 年卒の同窓生が勤めていらっしゃる法律事務所（**TMI 法律事務所**）を訪問しました。先輩は、一流の弁護士でありながら、東京大学法科大学院の教授もされているすごい人です。

法律事務所の中には、法律に関する書籍などを扱っている図書館や模擬法廷などがあるなど、ただただすごく立派で荘厳な雰囲気でした。私たちも模擬法廷

に座り、裁判官や弁護士を体験することで、裁判の雰囲気をイメージすることができました。

弁護士は、会社の調査や契約書の制作を行ったりすることを知りました。また、スポーツの分野や芸能関係、テレビ局の分野で著作権などに関する顧問を行っていることも分かりました。弁護士が犯罪などの弁護だけでなく、すべての職種に関わっていることを聞いて驚きました。仕事において大事なこととして、「自分から情報を発信し、自分から仕事を掴むこと。好奇心を持ってチャレンジ。人脈のネットワークを広げること。」の 3 点を教えていただきました。



次に新宿へ移動し、H17年卒の同窓生が設立した会社UZUZを訪問しました。ここは、既卒・第二新卒の人材を就業サポートする目的で設立された会社です。この会社では、求職者の理解を深め、



よりよいフォローを行うためにキャリアカウンセリングを行っています。私たち4人も二組に分かれてお互いについて様々な質問をすることで、キャリアカウンセリングの手法を学びました。聞いた話の中で印象的だったのは、「相手の心を開かせるためには自分の失敗談や短所をさらけ出す。」ということです。キャリアカウンセリングの手法は、日々の人間関係においても活用できることを教えていただきました。



3日目にも企業等の訪問を行いました。まず、霞が関の農林水産省へ移動しました。農林水産省では、ちょうど森山大臣が退任される日で慌ただしい雰囲気を見学することで、改めて行政関係の仕事の大変さを感じました。S54年卒とH9年卒の同窓生に省内を案内していただきました。実際に記者会見を行う場所に入ったり、大臣の部屋の前を通ったり、農林水産省についての仕組みを教えてくださいました。



次に赤坂にあるTBSに移動しました。ここでS59年卒の同窓生に案内していただきました。TBSでは私たちが普段見ているテレビ番組がどのように作られているかを知ることができ、とても興味深いものでした。政治・経済・バラエティなどに分かれており、また、映像を撮影する人、その映像を編集する人、字幕をつける人などに分担されていました。実際に11時30分のニュース番組を放送するところと同行させていただきました。放送が始まる1秒前まで慌ただしくチェックをしており、私たちが楽しんでいる裏に、これほどの労力があつたのかと思いました。



東京研修で最後に訪れたのが日本橋人形町にあるノーベルファーマという製薬会社です。新薬一つつくるのに莫大な時間とお金がかかり、新薬をつくれる国は、日本・アメリカ・EUの一部だけだということなど、薬をつくるということは非常に難しいということが分かりました。この会社では、新薬をつくる時の決め手は自分たちがつくりたいものをつくるのではなく、沢山の人のニーズにあったものをつくるということを知っていてすごいなと思いました。心に残った話は、「英語は必需品、読み書きはできなければならない。自国の文化を知らなければならない。ロマンを持つ（お金は後からついてくる）。物事には向き不向きがあるからやりたいことをする。（商品において）ブランド化することが大事。」ということです。

研修を終えての感想から

企業や大学見学をし、たくさんの先輩方にお会いし、話を伺いました。それらの経験は、高校3年生である私たちが卒業し、大学に進んだ際、そして、やがて就職する際に大きく生かせることだと思います。そして、加治木高校の在校生と卒業生がこのような機会を通してふれあい、より関係性を深めることが、加治木高校全体の活性化につながると感じました。（仮屋）

今回参加させていただいた国内派遣事業で私は多くのものごとに触れることができました。見知らぬ土地を歩き、加治木高校の同窓生の方々の話を聞き、今までにない経験ができました。私がこの事業で学んだ主なことは、「人生の選択肢の多さ」と「人脈の大切さ」だと思います。これを糧として、これからの人生を豊かなものにできるよう頑張りたいです。（松平）